

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2192100176		
法人名	野原電研株式会社		
事業所名	グループホーム ハッピー桜 (染井)		
所在地	岐阜県大垣市外淵2丁目81番地		
自己評価作成日	令和 1 年11月 4 日	評価結果市町村受理日	令和 2年2月 12日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaiyokensaku.jp/21/indeex.php?action=kouhyou_detail_2016_022_kani=true&igiyosyoCd=2192100176-00&PrefCd=21&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 岐阜後見センター
所在地	岐阜県岐阜市平和通2丁目8番地7
訪問調査日	令和1年11月25日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

一日の様子はメリハリのある生活を送って頂けるように公文の学習療法(有料、個人負担)を取り入れたり、パズルや簡単な計算問題や漢字、利用者様の出来る事、またそういう事が苦手な利用者様には塗り絵等を提供しています。またご自宅からの生活の継続として洗濯物を干したり、たたんだり、食後の洗い物などお手伝いも声掛けやっていたり、その他二階のデッキには広い空間があり、季節の草花や野菜を植えて季節感を味わっていただいたり、天気の良い日はみんなでデッキに出て日光浴や体操で気分転換の場としても活用されています。また利用者様のご家族が希望されたら、看取りをさせていただき、ご家族からは、家族でも出来ない事をやってもらえ感謝しています...とお声かけていただいています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは、隣地にある同法人運営の施設とともに、自然豊かな田園地帯に立地しており、周囲はのどかで落ち着いた環境にある。建物の2階にホームがあり、ユニットを挟んで広く明るいデッキがあり、利用者は日光浴をしたり、園芸を楽しんだり、洗濯干しをしたりする等、それぞれ思い思いに過ごしている。ホームでは、法人理念を踏まえ、独自の目標を設定し、エンパワメントを高める観点から、利用者が生きがいを持ち、それぞれのスタイルにあった生活が送れるよう、一人ひとりを大切に支援に取り組んでいる。近年、利用者の高齢化に伴い、看取りの機会が多くなった。そのため、入居時に終末期ケアのあり方の確認や入居中に重篤化した場合の利用者・家族の意向を確認しつつ、できるだけ利用者・家族の希望に添うべく、職員ワンチームで支援にあたるよう看取り体制を強化している。また、各種研修参加等を通して、職員の質の向上に努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎月の定例会議では利用者様を念頭に虐待や身体拘束等の研修の実施。また毎朝の申し送り時には全員で理念を唱和しています。	法人理念のもと毎年、ホーム独自の理念が掲げ、定例会議や申し送り等を通して職員間で共有している。人を大切に思うことを常に念頭においた支援に努め、日常的なケアの場面での気づきや改善点について意見を出し合い、日々の支援に活かしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の方々とは日常的に交流出来ていない状況ですが、近隣の保育園の運動会等には参加させていただいています。	会議を通じて、地域の自治会長や民生委員等と現状報告や意見交換等を通して交流している。近隣住民との交流がなかなかできない状況ではあるが、近隣にある保育園の行事に参加したり、田畑で作業する住民と挨拶を交わす等の交流がある。	今後とも、自治会とのつながりを深め、地域の行事への参加したり、ホームの行事に地域住民に参加していただけるよう広報を行う等、地域との交流促進に向けた取り組みに期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議で同町内の自治会長さん、民生委員さんに参加していただき、意見交換や地域の情報を発信していただけてます。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議では、施設の活動報告をパワーポイントを使用し、写真等で報告。また認知症の勉強会を実施し、最後に意見交換し参加者みなさんの貴重なご意見を参考にしてホーム運営のサービス向上に役立てています。	2ヶ月に1回の会議では、自治会長、民生委員、地域包括支援センターや家族が参加し、ホームの運営状況や利用者の現状について報告し、意見交換している。災害対策について意見をいただいたり、試食会を兼ねての会議では様々な意見をいただいたりしている。いただいた意見はサービス向上につなげている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	県や市からの情報は社内メール又は、口頭にて事業所全体で共有しています。また定期的に開催される事業者連絡会に出席し、施設の現状や悩み、困難事例等を意見交換しています。	定期的に開催されている市の事業者連絡会に参加し、市担当課に制度の疑問点やホームの運営等について積極的に相談し、情報や助言をもらっている。この連絡会への参加を通じて、市との連携関係を深めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員が外部研修の虐待防止、身体拘束廃止に参加し、その資料をもとに、定例会議の中で研修を実施しています。職員には安易な身体拘束をしないように指導しています。施設では身体拘束委員会を年4回開催しています。	センサーマット等を使用する場合には、身体拘束の三原則に照らし、同意を得て行っている。身体拘束をしないケアについて外部研修で学んだ内容を職員に周知し、全職員が身体拘束の具体的な行為について理解した上で日頃のケアを実践している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待とは何か？を知る事が大切。暴力だけではなく、忘れがちな言葉の暴言、何もしないというネグレクトも虐待である事を周知徹底。無意識に虐待してのではないかと職員同士が気を付けています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在は該当者がみえない為、職員が権利擁護に関する制度について、認識が薄いと思います。今後家庭環境の多様化により、発生する可能性があると思うので、研修があれば参加していきたいと思います。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に至るまでに利用者様やご家族の不安や疑問にお答えし理解を頂いています。契約時にも重要事項説明書や運営規定等で、説明させていただき契約を交わしています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様、ご家族方々のお声を聞きそのまま、お客様の声情報として投函する仕組みがあります。それを毎月の施設長会議にて事業所全体の声を把握しています。特に苦情等は貴重な意見として職員全員で情報共有しています。	意見箱を設置し、利用者・家族の意見の汲み上げに努めている。面会時に家族の発言や意見を職員が書き取り、「お客様の声情報」として会議で報告し、ホームの運営に活かしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の定例会議での職員の意見や考えを記録し上長に報告しています。また問題発生時にはその都度上長に相談、報告しています。	管理者は日頃から業務を通して職員の意見聴取に努めるとともに、会議等の機会を捉えて、職員の意見を汲み上げている。職員の意見は、例えば、勤務体制の見直しや設備の充実を行う等ホームの運営に活かしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	報奨金制度があり、資格を取得した時は金一封が出ます。自己評価を実施し意欲や、やりがいを把握し研修に意欲がある職員は外部研修(費用は会社持ち)に参加。介護のスキルアップを図る事ができます。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修派遣の年間計画があり、経験年数や実績、希望を考慮し派遣しています。研修終了後はその職員が講師となり、施設内研修を実施しています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	大垣市介護サービス事業者連絡会の会員になっており、定期的な会議や研修に参加しています。また地域密着連絡会の会議に参加し、他施設の方々と積極的に情報交換しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご利用前に本人やご家族と面談、生活歴や身体状況等をアセスメントしいろいろな情報を聞き、入居後も安心して生活ができるように努めています。また主治医からの情報を収集、健康面からも支援しています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族からも同じように面談、今後の支援に対しご要望を聞いています。又入居後も施設からの情報提供、相談しています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	アセスメントシートを活用し、ご本人やご家族からお聞きした言葉を見直し、新たなニーズに対しても、添えるように支援しています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様が残存能力を発揮していただき、洗濯物を干したり、たたんだり、職員と共に会話しながら“できる事”を無理のない程度で手伝っていただいています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時には利用者様のご様子を報告させていただいたり、利用者様とご家族がゆっくり過せるように環境を整えています。ご家族からの申し出があれば外出や外泊も出来ます。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会時には楽しく過ごしていただけるようにその場の雰囲気大切にしています。それが居室であったり、他の利用者様と一緒にフロアだったり... 臨機応変に対応しています。	家族や地元の友人・知人等の馴染みの人たちの来訪がある。面会時には気持ち良く過ごしてもらえるよう配慮する等、馴染みの人との関係継続の支援に努めている。また、美容院、墓参り、外食等には家族と共に出かけてもらう等して、これまでの場所との関係が途切れないようにしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様が穏やかに過ごしていただけるように、席を決めています。個々の性格や、認知症の症状を把握し、トラブルのないよう対応しています。時には職員が間に入り、楽しく交流していただけるように支援しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後もご相談があれば対応しています。又施設外でお会いした時も挨拶等会話しています。入院や他施設の時には、介護サマリーや電話にて情報提供しています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	カンファレンスや申し送り時に気になる利用者様は個別に対応しています。また不安そうな表情や不穏な利用者様にはお話を傾聴しています。天気の良い日にはデッキにお誘いし気分転換を図っていただいています。	日常的なケアを通じた利用者との関わりの中で、コミュニケーションに心がけ、利用者一人ひとりの希望や意向の把握に努めている。意思疎通が困難な方には、利用者の言動や表情から思いを把握する等、常に本人のペースに合わせた支援に取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご利用前にご本人やご家族に家族状況や生活歴、好きな事、嫌いな事などアセスメントをしています。また入居時には、自宅にある馴染みの物を持参していただき、家庭の延長のような環境を整えています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活の様子を介護記録や申し送りに記録し利用者様の生活状況を把握しています。またレクリエーションや行事を通して意外な一面をみつけ職員全員で情報共有しています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	面会時にご家族に利用者様のご様子を報告したり、ご家族からも情報を得たり、支援方法を相談しています。定例会議時もそれぞれのユニットでカンファレンスの場で支援方法を話し合い介護計画を作成しています。	定期的にモニタリングを実施し、毎月のカンファレンス時に目標達成状況を確認している。面会時に家族の意見を確認し、それを踏まえて会議では、嚥下状況による食形態や入浴方法、排泄時の個別支援等のケアの状況を検討し、計画を見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者様の様子を介護記録や申し送りノートに記入し利用者様の状況を職員全員が把握し日々の支援を実践しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日々の生活からご本人やご家族から得た情報をもとに介護計画の変更等、臨機応変に対応しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	大垣市の交流会や広報などで新しい資源を見出し外出や外食など楽しんでいただけるように支援しています。大垣祭り見学や外食は利用者様に好評です。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医はあるが、強制はしておらず、馴染みのある入居前のかかりつけ医でもかまわない。受診される時は日々の様子やバイタルなどの情報を提供しています。	従前からのかかりつけ医等、本人や家族の希望で医療機関を選択でき、受診の際には、利用者の情報を提供している。精神科の受診には職員も付き添い、細かな情報を提供をしている。また、協力医による訪問診療が行われる等、医療連携ができています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	施設には2名の看護師が在籍しています。利用者様の服薬管理や、体調管理等 体調が悪い時はその都度対応しています。また協力医の看護師も24時間オンコール体制をとっており、指示が受けられるようになっています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には指定の介護状況報告書があり、適切な治療が受けられるよう協力しています。また救急車を要請した時には、必ず職員が同乗し、病院の先生に状況を伝えています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に終末医療についての説明、確認を行っています。看取りに対しても、家族の希望、条件とうが合えば看取りの体制を整えています。看取りの実績もありご家族からの問い合わせもあります。	入居時に終末期ケアのあり方について説明し、意向を確認している。重篤化した場合には、家族の意向を確認し、希望に添った終末期ケアを実施している。提携医や看護師との連携を強化して、看取りの体制を整えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者様の急変はいつ起こるか分からないので、日頃から緊急時対応マニュアルを掲示しています。また消防署から職員さんに来ていただき職員を対象に救命講習を開催しています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	運営推進会議において災害時の地域の協力体制の確認をしています。水害や火災時の避難経路の確認を定期的に変更しています。	定期的に日中帯、夜間を想定した避難訓練を行っている。また、近隣の事業所と災害時の協力体制を組んでいる。運営推進会議での意見や消防署の指導を活かし、災害対策の改善や地域との協力体制の構築に取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様への声掛けはいつも気を付けています。無意識の不適切の声掛けには職員がお互いに注意しています。特に排泄時や入浴時にはプライバシーに配慮しています。	利用者一人ひとりの人格を尊重する観点から、尊厳を損ねないよう、敬意を表した言葉遣いに心がけている。具体的なケアの場面では、さりげない声かけに努め、職員間で言葉かけについて注意し合っている。また、排泄時やコール対応、入浴時には1対1の対応を行う等、プライバシーに配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	「どうでしょうか?」「どちらにしますか?」 というように利用様本人が選択できるように声掛けしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様のご意向を聞きながら支援しています。「やりたくない」「行かない」と言われる時には無理強いはしていません。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者様のご意向を聞きながら支援しています。洋服などはいつも同じにならないように気を付けています。理美容に関しては、本人に確認してから、髪型や長さを美容師さんに伝えています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	外注による献立の提供になっているため、メニューを変えることはできませんが、業者さんの満足度調査があるので希望は言えます。年に数回おやつレクがあり利用者様、職員で楽しく食事作りをし、好評を得ています。	満足度調査で得た利用者の希望を業者に伝え、改善につなげている。年に2回の寿司バイキング(ソフト食の入居者には、ちらしずしを提供する)を行い、楽しまれている。また、おやつレクの活動では利用者と職員と共におやつを作る等して楽しんでもらっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	外注のため栄養管理などは心配ないです。また食事摂取量はその都度記録しています。利用者様の状態により、食事形態を常食、ソフト食、ミキサー食で提供しています。食事が極端に少ない方にはエンシュアで栄養補給しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後には声掛けにて口腔ケアをしています。自己にて出来ない利用者様は介助しています。また希望者様には、訪問歯科の口腔ケアの指導や義歯の調整、治療等を受けてみます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を使用し、排泄パターンを確認、介助の必要な利用者様には声掛けトイレ誘導しています。また立位の取れない利用者様も二人介助にてトイレで排泄していただいています。	排泄チェック表を作成し、利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し、トイレで排泄できるよう、排泄の自立に向けた支援をしている。利用者の身体状況に応じてさりげなく誘導したり、おむつの種類を検討する等して利用者に合わせて支援を行っている。また、ポータブルトイレはできるだけ使用せず、トイレでの排泄を支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄記録を確認。便秘時には下剤や浣腸で排便コントロールしています。また便秘きみの利用者様には腹部マッサージや水分摂取、体を動かす事を促しています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴を楽しみにしている方、苦手な方、熱い湯の好きな方等々個々の好みに合わせ入浴していただいています。また身体状況によって個浴、機械浴と分けて、安全に入浴を楽しんでいただいています。	週2回の入浴が基本であるが、状況に応じて柔軟な対応をしている。個浴で入浴支援しており、1対1で対応し、職員と会話する等して入浴の時間を楽しんでいただいている。身体状況により個浴が難しい場合は機械浴を利用した入浴支援を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者様が個々の生活に合わせ就寝の声掛けをしています。寝付けなくフロアに出てみえた時は、お茶を出したり、お話を傾聴しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者様のお薬情報はいつでも見られる所においてあり、薬の重要性も周知しています。服用時には、日付や名前を声に出して確認し服用していただいています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	メリハリのある生活を送るため、漢字や計算プリント、パズル等を提供しています。また洗濯物を干したり、たたんだり利用者様の出来る事手伝っていただいています。また天気の良い日はデッキに出て気分転換しています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	レク当番があり、毎月外出レクの行事の計画しています。外出時はご家族にも声掛け、参加を募っています。またご家族からの依頼で外出や外食を楽しまれる利用者様もみえます。	外出については、利用者の希望をくみ上げ、ホームのレク当番が毎月の外出行事計画を作成している。外出の際には家族にも声かけする等して、参加を募っている。外出先では利用者や家族はもちろん地域の方や店舗の方とも交流をしている。日常的には、ホーム周辺の散歩を楽しんでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的にはお金は事務所で預かっています。ただご本人の希望で手元にお金を持っていたいと言われる方はご家族と相談し持ってみえる方もみえます。他、事務所で預かっているお金で施設の自販機で飲み物を購入させる方もみえます。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を持ってみえる利用者様もみえますが使用はされていません。利用者様にご家族に電話したいと言われる時は事務所からかけていただいています。利用者様に届いた品物やはがき等は本人に渡しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	全てバリアフリーになっています。室内はいつも電気がついており明るいです。手作りの手芸品も多数飾っており、家庭的な雰囲気があります。またデッキにはプランターに花が植えてあり季節感を感じていただいています。	フロアには、吊るし雛、折り紙、写真、塗り絵など利用者の四季を感じる作品が飾ってある。また、ソファを配置し、休めるようにする等しており、落ち着いて温かみのある空間となっている。2階のデッキは広く、洗濯物を干すスペースがあり、四季折々の景色も楽しめる。プランターが置かれ、それぞれに花や季節の植物を育てたり、会話に花を咲かせたりする等、居心地良く過ごせる空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う利用者様の席を隣席にしたり、少し離れた所にソファを置いて一人にもなれるように配慮しています。また席は利用者様の様子、状況をみながら変えることもあり、皆様が穏やかに過ごしていただけるようにしています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	空いている居室に入居していただきますが、身体状況等で、居室の変更もしています。(入居時にももって変更もある事を伝えてます。)またご自宅にあった馴染みの物や写真等をご持参いただきやすさの場を提供しています。	居室をお貸ししているという考えのもと、馴染みの家具や調度品等を持参していただいております。仏壇を置いている方もいます。面会時に家族との写真を撮り、居室に置く等して、利用者が安心して、ゆったり落ち着いて過ごすことができるよう支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者様の動線には歩行の障害にならないように環境整備しています。またトイレやお風呂には良く分かるように掲示しています。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2192100176		
法人名	野原電研株式会社		
事業所名	グループホーム ハッピー桜 (八重)		
所在地	岐阜県大垣市外淵2丁目81番地		
自己評価作成日	令和 1 年11月 4 日	評価結果市町村受理日	令和 2年2月 12日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaiyokensaku.jp/21/indeex.php?action=kouhyou_detail_2016_022_kani=true&igiyosyoCd=2192100176-00&PrefCd=21&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 岐阜後見センター
所在地	岐阜県岐阜市平和通2丁目8番地7
訪問調査日	令和1年11月25日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

一日の様子はメリハリのある生活を送って頂けるように公文の学習療法(有料、個人負担)を取り入れたり、パズルや簡単な計算問題や漢字、利用者様の出来る事、またそういう事が苦手な利用者様には塗り絵等を提供しています。またご自宅からの生活の継続として洗濯物を干したり、たたんだり、食後の洗い物などお手伝いも声掛けややっていただいています、その他二階のデッキには広い空間があり、季節の草花や野菜を植えて季節感を味わっていただいたり、天気の良い日はみんなでデッキに出て日光浴や体操で気分転換の場としても活用されています。また利用者様のご家族が希望されたら、看取りをさせていただき、ご家族からは、家族でも出来ない事をやってもらえ感謝しています...とお声かけていただいています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎月の定例会議では利用者様を念頭に虐待や身体拘束等の研修の実施。また毎朝の申し送り時には全員で理念を唱和しています。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の方々とは日常的に交流出来ていない状況ですが、近隣の保育園の運動会等には参加させていただいています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議で同町内の自治会長さん、民生委員さんに参加していただき、意見交換や地域の情報を発信していただけてます。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議では、施設の活動報告をパワーポイントを使用し、写真等で報告。また認知症の勉強会を実施し、最後に意見交換し参加者みなさんの貴重なご意見を参考にしてホーム運営のサービス向上に役立ててます。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	県や市からの情報は社内メール又は、口頭にて事業所全体で共有しています。また定期的に開催される事業者連絡会に出席し、施設の現状や悩み、困難事例等を意見交換しています。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員が外部研修の虐待防止、身体拘束廃止に参加し、その資料をもとに、定例会議の中で研修を実施しています。職員には安易な身体拘束をしないように指導しています。施設では身体拘束委員会を年4回開催しています。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待とは何か？を知る事が大切。暴力だけではなく、忘れがちな言葉の暴言、何もしないというネグレクトも虐待である事を周知徹底。無意識に虐待してるのではないかな？職員同士が気を付けています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在は該当者がみえない為、職員が権利擁護に関する制度について、認識が薄いと思います。今後家庭環境の多様化により、発生する可能性があると思うので、研修があれば参加していきたいと思います。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に至るまでに利用者様やご家族の不安や疑問にお答えし理解を頂いています。契約時にも重要事項説明書や運営規定等で、説明させていただき契約を交わしています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様、ご家族方々のお声を聞きそのまま、お客様の声情報として投函する仕組みがあります。それを毎月の施設長会議にて事業所全体の声を把握しています。特に苦情等は貴重な意見として職員全員で情報共有しています。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の定例会議での職員の意見や考えを記録し上長に報告しています。また問題発生時にはその都度上長に相談、報告しています。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	報奨金制度があり、資格を取得した時は金一封が出ます。自己評価を実施し意欲や、やりがいを把握し研修に意欲がある職員は外部研修(費用は会社持ち)に参加。介護のスキルアップを図る事ができます。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修派遣の年間計画があり、経験年数や実績、希望を考慮し派遣しています。研修終了後はその職員が講師となり、施設内研修を実施しています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	大垣市介護サービス事業者連絡会の会員になっており、定期的な会議や研修に参加しています。また地域密着連絡会の会議に参加し、他施設の方々と積極的に情報交換しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご利用前に本人やご家族と面談、生活歴や身体状況等をアセスメントしいろいろな情報を聞き、入居後も安心して生活ができるように努めています。また主治医からの情報を収集、健康面からも支援しています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族からも同じように面談、今後の支援に対しご要望を聞いています。又入居後も施設からの情報提供、相談しています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	アセスメントシートを活用し、ご本人やご家族からお聞きした言葉を見直し、新たなニーズに対しても、添えるように支援しています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様が残存能力を発揮していただき、洗濯物を干したり、たたんだり、職員と共に会話しながら“できる事”を無理のない程度で手伝っていただいています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時には利用者様のご様子を報告させていただいたり、利用者様とご家族がゆっくり過せるように環境を整えています。ご家族からの申し出があれば外出や外泊も出来ます。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会時には楽しく過ごしていただけるようにその場の雰囲気大切にしています。それが居室であったり、他の利用者様と一緒にフロアだったり... 臨機応変に対応しています。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様が穏やかに過ごしていただけるように、席を決めています。個々の性格や、認知症の症状を把握し、トラブルのないよう対応しています。時には職員が間に入り、楽しく交流していただけるように支援しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後もご相談があれば対応しています。又施設外でお会いした時も挨拶等会話しています。入院や他施設の時には、介護サマリーや電話にて情報提供しています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	カンファレンスや申し送り時に気になる利用者様は個別に対応しています。また不安そうな表情や不穏な利用者様にはお話を傾聴しています。天気の良い日にはデッキにお誘いし気分転換を図っていただいています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご利用前にご本人やご家族に家族状況や生活歴、好きな事、嫌いな事などアセスメントをしています。また入居時には、自宅にある馴染みの物を持参していただき、家庭の延長のような環境を整えています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活の様子を介護記録や申し送りに記録し利用者様の生活状況を把握しています。またレクリエーションや行事を通して意外な一面をみつけ職員全員で情報共有しています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	面会時にご家族に利用者様のご様子を報告したり、ご家族からも情報を得たり、支援方法を相談しています。定例会議時もそれぞれのユニットでカンファレンスの場で支援方法を話し合い介護計画を作成しています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者様の様子を介護記録や申し送りノートに記入し利用者様の状況を職員全員が把握し日々の支援を実践しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日々の生活からご本人やご家族から得た情報をもとに介護計画の変更等、臨機応変に対応しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	大垣市の交流会や広報などで新しい資源を見出し外出や外食など楽しんでいただけるように支援しています。大垣祭り見学や外食は利用者様に好評です。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医はあるが、強制はしておらず、馴染みのある入居前のかかりつけ医でもかまわない。受診される時は日々の様子やバイタルなどの情報を提供しています。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	施設には2名の看護師が在籍しています。利用者様の服薬管理や、体調管理等 体調が悪い時はその都度対応しています。また協力医の看護師も24時間オンコール体制をとっており、指示が受けられるようになっています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には指定の介護状況報告書があり、適切な治療が受けられるよう協力しています。また救急車を要請した時には、必ず職員が同乗し、病院の先生に状況を伝えています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に終末医療についての説明、確認を行っています。看取りに対しても、家族の希望、条件とうが合えば看取りの体制を整えています。看取りの実績もありご家族からの問い合わせもあります。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者様の急変はいつ起こるか分からないので、日頃から緊急時対応マニュアルを掲示しています。また消防署から職員さんに来ていただき職員を対象に救命講習を開催しています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	運営推進会議において災害時の地域の協力体制の確認をしています。水害や火災時の避難経路の確認を定期的実施しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様への声掛けはいつも気を付けています。無意識の不適切な声掛けには職員がお互いに注意しています。特に排泄時や入浴時にはプライバシーに配慮しています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	「どうしましょうか?」「どちらにしますか?」というように利用様本人が選択できるように声掛けしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様のご意向を聞きながら支援しています。「やりたくない」「行かない」と言われる時には無理強いはしていません。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者様のご意向を聞きながら支援しています。洋服などはいつも同じにならないように気を付けています。理美容に関しては、本人に確認してから、髪型や長さを美容師さんに伝えていきます。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	外注による献立の提供になっているため、メニューを変えることはできませんが、業者さんの満足度調査があるので希望は言えます。年に数回おやつレクがあり利用者様、職員で楽しく食事作りをし、好評を得ています。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	外注のため栄養管理などは心配ないです。また食事摂取量はその都度記録しています。利用者様の状態により、食事形態を常食、ソフト食、ミキサー食で提供しています。食事が極端に少ない方にはエンシュアで栄養補給しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後には声掛けにて口腔ケアをしています。自己にて出来ない利用者様は介助しています。また希望者様には、訪問歯科の口腔ケアの指導や義歯の調整、治療等を受けてみます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を使用し、排泄パターンを確認、介助の必要な利用者様には声掛けトイレ誘導しています。また立位の取れない利用者様も二人介助にてトイレで排泄していただいています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄記録を確認。便秘時には下剤や浣腸で排便コントロールしています。また便秘きみの利用者様には腹部マッサージや水分摂取、体を動かす事を促しています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴を楽しみにしている方、苦手な方、熱い湯の好きな方等々個々の好みに合わせ入浴していただいています。また身体状況によって個浴、機械浴と分けて、安全に入浴を楽しんでいただいています。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者様が個々の生活に合わせ就寝の声掛けをしています。寝付けなくフロアに出てみえた時は、お茶を出したり、お話を傾聴しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者様のお薬情報はいつでも見られる所においてあり、薬の重要性も周知しています。服用時には、日付や名前を声に出して確認し服用していただいています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	メリハリのある生活を送るため、漢字や計算プリント、パズル等を提供しています。また洗濯物を干したり、たたんだり利用者様の出来る事手伝っていただいています。また天気の良い日はデッキ出て気分転換しています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	レク当番があり、毎月外出レクの行事の計画しています。外出時はご家族にも声掛け、参加を募っています。またご家族からの依頼で外出や外食を楽しまれる利用者様もみえます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的にはお金は事務所で預かっています。ただご本人の希望で手元にお金を持っていたいと言われる方はご家族と相談し持ってみえる方もみえます。他、事務所で預かっているお金で施設の自販機で飲み物を購入させる方もみえます。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を持ってみえる利用者様もみえますが使用はされていません。利用者様がご家族に電話したいと言われる時は事務所からかけていただいています。利用者様に届いた品物やはがき等は本人に渡しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	全てバリアフリーになっています。室内はいつも電気がついており明るいです。手作りの手芸品も多数飾っており、家庭的な雰囲気があります。またデッキにはプランターに花が植えてあり季節感を感じていただいています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う利用者様の席を隣席にしたり、少し離れた所にソファを置いて一人にもなれるように配慮しています。また席は利用者様の様子、状況をみながら変えることもあり、皆様が穏やかに過ごしていただけるようにしています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	空いている居室に入居していただきますが、身体状況等で、居室の変更もしています。(入居時に前もって変更もある事を伝えてます。)またご自宅にあった馴染みの物や写真等をご持参いただきやすらぎの場を提供しています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者様の動線には歩行の障害にならないように環境整備しています。またトイレやお風呂には良く分かるように掲示しています。		